

9月講話会 報告

皆様こんにちは。暑かった夏の日射しは、いつの間にか過ぎ去り、時折肌寒さを感じるこの頃です。お元気にお過ごしでしょうか。先月のすてきな大分を伝える会の講話会は、「創業者上田保の魅力とマリーンパレスの歩み」と題して、上田保氏のお孫様で橋本社長夫人の世紀子様とマリーンパレス社長の橋本均様をお迎えしての開催となりました。今回は、上田保氏のお孫様より、直接その人となりを伺い、更にマリーンパレス社長より、上田保が作られたマリーンパレス水族館と今日のうみたまご設立の背景や歩み、そして今、目指される水族館の姿にも分かりやすく熱く語りかけてくださいました。今回は、その主な内容のご報告をいたします。



1. 上田保の人となりと交友関係《話：橋本世紀子様》

祖父の上田保は、18歳で、上京しました。しばらくして、法律の勉強が必要であることを痛感し、苦学をしながら今の法政大学の夜学で学びました。27歳で弁護士の試験に合格し、35歳で『趣味の法律』を出版します。これが大ヒットし、630版を重ねるベストセラーになりました。終戦後、初代の大分市長に53歳で当選し、4期16年勤め、その後、マリーンパレス水族館を開設しました。上田は交友関係が広く友情に恵まれました。東京時代、県人会でお世話をした双葉山、彫刻家の朝倉文夫と出会いました。朝倉は年齢は歳上で、上田は可愛がられました。福田平八郎は、大分中学の同級で京都で成功し、京都に滞在していたのですが、たびたび上京して、朝倉亭で上田、双葉山、朝倉と会っていました。また竹工芸家で人間国宝の生野祥雲斎、そして元大分県知事の木下郁なども、非常に親しかった方でした。とくに県知事の木下郁とは、城址公園には、二人の銅像が建てられていますが、同年の生まれで、市長・県知事の関係の時も非常に仲が良く、それは終生続きました。死んだのも同年（昭和55年、1980年）の同月（6月）でした。

また、上田は、マリーンパレスの収益金でキリストン文化顕彰の銅像を次々と建てました。その功績でローマ法王からも勲章を貰いました。また大分市からは名誉市民の表彰を受けました。しかしそのほかの叙勲や褒章等の表彰は全て辞退しました。上田の中には、神様からの表彰をいただければそれで充分と考えていたようです。自らの「自伝」も残しませんでした。上田は、大分を愛していました。また、大分の良いところを事あるごとに良く人に話し、伝えた大分ラバー（Lover）でした。皆様も同じだと思います。共に大分を愛する大分Loversになっていきましょう。

2. マリーンパレス水族館の歩み（話：橋本社長）

《上田保の水族館の夢》



上田には、海水の中にガラスのトンネルを作り、“自由に泳ぐ魚の自然な姿を市民に見せたい”という夢がありました。市立水族館も検討しましたが、黒字経営が困難と判かり、棚上げとなりました。上田は、ここで夢を諦めることはせず、民間で水族館を設立しようと出資者を募り、自らも退職金を出資しました。大分交通、フジボウの他、個人では一万田日銀総裁や西村栄一、木下郁等大勢の方々にも協力いただきました。

《上田保の水族館づくりのコンセプト》



それは、他にはないユニークな水族館にするというものでした。具体的には、①水槽の中に大きな流れをつくり魚が元気に泳げるように②魚が思いのままに自由に運動できる水槽にする③魚の知能や習性を観客が楽しむ④人と魚が楽しく交流するという4つのコンセプト（基本概念）を基本に置き、設計されていったのでした。回遊式のドーナツ型の大水槽やマリーンガールの餌付け、更には魚の曲芸などはこの観点から生まれたものでした。これによりマリーンパレス水族館は、大人気となったのでした。当時、水槽のガラス厚は、国内では、12mmのものが最大で、回遊式の大水槽には無理でした。その時は、平松守彦氏が通産省にいた時に、英國に35mmのものがあることが分かり、この調達により回遊式の大水槽の実現ができたのでした。

（写真：目の見えない少年に魚の模型で、水族館で泳ぐ魚の感動を伝えようとされた上田社長（右端））

《全国一の水族館に》

昭和39年に開館して10年間は、100万人を超える入場者を記録し、全国一位の水族館となりました。高崎山とともに非常な人気となり、修学旅行のメッカになりました。

しかしその盛況な水族館も、社会の変化とともに観光客の関心も変化していったのか、低迷期を迎える25万人にまで落ち込むことになります。この時期に橋本氏に声がかかり、再建を託されることになりました。構想に着手して10年かけて“うみたまご”を作り上げました。

《うみたまごの誕生とこれからの水族館》

新しい水族館のコンセプトとして、量の拡大は求めず、民間の中小企業として、質を高め、OnlyOneの水族館を目指すことにしました。そして別府湾の素晴らしいロケーションと創業者上田社長の歴史と伝統が存在するという最大の強みを生かしていくことを基本におきました。更には、バーチャルな世界では味わえない“リアル性”的ある水族館、“今の時代に忘れかけている大切なものを気づかせてくれる水族館”、例えば、いのちの大切さや親子の情など生物の姿を通じて気づかせてくれる水族館づくりを重視し、水族館「うみたまご」をスタートしました。開設の初年度には128万人の入場者を記録し、20年後の現在でも70万人の水準を維持しています。



動物と人との垣根を無くし交流ができる“あそびーち”を作りました。これはガラスのない水族館でもあり、今大好評です。これからも創業者上田保の精神を活かし、誇りをもってOnlyOneと言われるユニークな水族館を継続していきたいと思っています。これからもご支援よろしくお願ひします。

（メモ 青井勝久）



11月講話会お知らせ



①11月9日（土）14:00-16:00 『大分の昆虫～チョウを中心として～』

講師：大分昆虫同好会 事務局長 玉嶋勝範 氏 於：ホルトホール大分 408会議室 参加費 500円/人

②11月30日（土）14:00-16:00 『ふるさとの先達をまちづくりに活かす』

～真名野長者、朝倉文夫、後藤静香他～ 講師：大分を愛する豊後大野市民・郷土史研究家 赤嶺信武 氏

於：ホルトホール大分 405会議室 参加費 500円/人

《お問い合わせ先》一般社団法人すてきな大分を伝える会 青井勝久 TEL 080-3865-7104